

# 滝川市 農業・農村振興ビジョン

「愛(I)・農(Know) たきかわ」への取組み

平成20年5月  
滝川市

## 目次

はじめに .....	2
目標年次 .....	2
滝川市農業の課題 .....	3
愛(1)・農(Know)たきかわ重点項目 .....	4
愛(1)・農(Know)たきかわ重点取組事項 .....	6
課題解決への取組の推進項目 .....	7
課題解決への取組の推進体制 .....	8
資料編 .....	9
営農類型 .....	13

## はじめに

滝川市農業・農村振興ビジョンは、平成 5 年に農業・農村の活性化を目指し、平成 12 年を目標年次として策定いたしました。

その後、農業情勢の変化などを受けて、平成 13 年に平成 17 年を目標とした第 2 次の農業・農村ビジョンを策定しました。

この間、国段階では、平成 17 年 3 月に食料・農業・農村をめぐる大きな情勢の変化を踏まえ、農政全般にわたる改革の実施を柱とした「新しい食料・農業・農村基本計画」が決定され、それに基づき、農政改革三対策として「水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）」、「米政策改革」、「農地・水・環境保全向上対策」が実施され、戦後農政の大きな転換期を迎えました。

また、国際的な農業情勢も、WTO 体制下において経済のグローバル化が進展し、一層の農産物市場開放が迫られる一方、人口増加やバイオ燃料の生産拡大、気象変動などによる国際的な食料需給の変化に伴う穀物を始めとする農産物価格の上昇、原油価格の高騰など大きく変動しています。

今回の本ビジョンは、これら改革や変化を踏まえた上で、農業者の皆さんや農業関係機関・団体と意見を交わしながら、今後における滝川市の農業振興の基本的な方針を示すべく策定したものです。

## 目標年次

目標年次は、平成 25 年に設定し、農業情勢の変化が著しいことから、毎年アクションプランを作成し、実施・検討・ローリングを行います。

## 滝川市農業の課題

### 滝川市農業を取り巻く状況

平成 19 年から、認定農業者を中心とした担い手に対する「水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）」や「農地・水・環境保全向上対策」が実施され、さらに担い手へ農地を集積するための農地制度改革の検討の進展など、戦後最大といわれる政策の転換に加え、水稲作でも平成 14 年の「米政策改革大綱」に基づき、平成 22 年度の「米づくりのあるべき姿」の実現に向けて、民間主体の需給調整方式に移行するなど、大きく変動しています。

一方、ロシア・中国・インドなどの急速な経済発展やバイオ燃料需要の拡大、地球温暖化による気象変動、人口増加などを要因とした、国際食糧需給の急激な変動と国際穀物相場の上昇、原油の高騰など国際情勢もこれまでになく大きく変動しています。

これらを踏まえて、本市の農業を発展させるためには、「生産」・「出荷」の視点ではなく、実需を意識した「販売」を重視する視点が必要となっています。

#### ※米づくりのあるべき姿とは

消費者ニーズに基づいて、担い手が市場を通して需要を鋭敏に感じ取り、様々な需要に即応した生産を行う消費者重視・市場重視の姿

### 4つの大きな課題

#### 所得の減少（収入の低下と支出の増加）

- 未整備の販売体制  
原料供給の体制のみで、加工・販売の体制が整っていない
- 米の価格  
さらに 397 の指標価格 6年 19,377 円/俵 ⇒ 19年 13,297 円/俵(31.0%減)
- 麦の価格(試算)
  - ・秋小麦 1等 経営所得安定対策前:8,536 円/俵 ⇒ 実施後:7,236 円/俵(15.2%減)  
(固定払い・成績払い・品代含む、単収 7 俵で試算)
  - ・春小麦 1等 経営所得安定対策前:9,860 円/俵 ⇒ 実施後:7,266 円/俵(26.3%減)  
(固定払い・成績払い・品代含む、単収 6 俵で試算)
- 原油価格の高騰  
燃料費、資材費の上昇
  - ・原油価格(円/KL:石油連盟) 17年1月:25,052 円 ⇒ 19年12月:61,427 円(約 2.5 倍)

#### 農家戸数の減少と高齢化

- 労働力の不足
- 現在の担い手の大量リタイアの懸念
- 遊休農地の発生・増大の懸念

#### 営農指導体制のせい弱化

- JA の広域化、普及センターの広域化、市の行財政合理化による技術指導者の不足
- 農地流動化における面的情報の欠如

#### 生産基盤のせい弱化

- 担い手の経営面積拡大と散在する農地
- 農家戸数の減少に伴う遊休農地の発生
- 土地改良事業実施から年数が経過したため、透排水性の悪い水田の増加

## 愛(I)・農(Know)たきかわ重点項目

### 1. 「魅力あふれる農畜産物の生産」

滝川市内では、とんぼの会の減農薬米や、全国一の面積を誇るなたね、初冬まきハルユタカ、春の生鮮野菜であるなばな、トマト、花きなど様々な農産物が生産されています。

そして現在、輸入食品や農畜産物の安全性についての不安が広がっており、国産農畜産物への関心・注目が急速に高まっています。

しかし市内においては、消費者を意識した生産の体制は充分とは言えない状況にあります。産地を確立し産地間競争に生き残るためには、消費者の理解と支持を得ることが必要です。

そのため、消費者に語りかけることのできる「魅力あふれる農畜産物の生産」への取組を推進します。

### 2. 「販売体制・戦略の構築と販売・加工の強化」

滝川産米の道内外での販売促進や道の駅などを活用した農産物直売、加工品としてハルユタカを使用した麺やパンなどの製品、なたね油を使ったドレッシングなどの開発・販売、手作り農産加工品の製造・販売が行われていますが、そのアイテム数や数量は多いとは言えません。また、地産地消への取組も緒に就いたばかりです。

滝川農畜産物ファンを獲得し、農業所得を確保するため、「販売体制・戦略の構築と販売・加工の強化」に取組みます。

### 3. 「多様な形態の担い手の確保と育成」

販売農家戸数は、急速に減少しています。農家戸数の減少は、生産力の低下に直結するだけでなく、遊休農地の増加や農村環境の悪化、地域コミュニティの低下をもたらします。

滝川市農業の将来を担う農業者を確保し、農業生産力や農地、農村環境の維持・向上を図るため「多様な形態の担い手の確保と育成」を推進します。

またこれらの重点項目を市・JA・普及センター・生産組合・部会と農業者が一体となって実施・検討するための組織として、農業振興会議を設置します。

## 愛（I）・農（Know）たきかわ 重点項目

1. 「魅力あふれる農畜産物の生産」
2. 「販売体制・戦略の構築と販売・加工の強化」
3. 「多様な形態の担い手の確保と育成」

### 目 指 す 姿

- 高品質米・低農薬米やトマト、なばな、花きなど消費者へ語りかけることのできる「魅力あふれる農畜産物」が生産されている。
- 高品質な農産物と併せて、滝川産小麦やなたね油などを利用した農産加工品が開発され、市内だけでなく市外も含めた様々なルートや場所で売られ、「たきかわ産品」として消費者に愛されている。
- 認定農業者の育成や新規就農者の確保、農業法人の設立などにより「滝川市の将来を担う多様な担い手」が確保され、農地や農村環境の維持・保全が図られている。

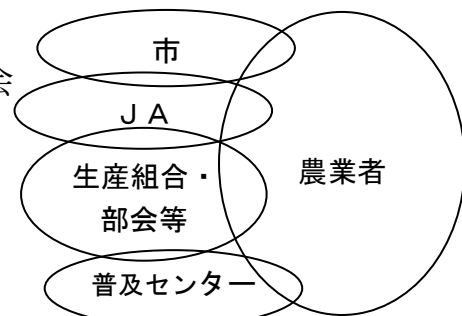
### アクションプラン策定

1年ごとに実施・検討・ローリング

### 農業振興会議の設置

#### アイデアの創出と実行

市・JA・普及センター・生産組合・部会  
と農業者が一体となって、実施・検討・  
ローリングを行う。



## 愛 (I)・農 (Know) たきかわ重点取組事項

### ア 農業者

「作れば売れる」ではなく、たきかわから「魅力あふれる農畜産物」を

1. 「消費者」を意識した「魅力あふれる農畜産物」の生産と加工・販売
  - 品質と単収の向上～「魅力あふれる農畜産物」へ向け、輪作の実施と優良品種の導入
  - 高品質米、低農薬米への取組み～魅力あるコメのセールスポイントづくり
  - 労働力に応じた施設園芸作物の導入～花き・トマト・なばなの導入
  - 農産加工や直売への取組み～付加価値をつけて収入アップと、たきかわファンの獲得
  - 規模に応じた少量多品目野菜の生産の取組と直売～小規模の面積での少量多品目野菜の生産と、農産物直売所や無人直売所、産直などを活用した販売による収入確保
2. コストの削減
  - 施設、機械の共同利用～設備投資の抑制
  - 土壌分析や病害虫予察に基づく適切な施肥、防除～必要な量を必要な分だけ投入

### イ 関係機関団体

「販売体制構築」と「担い手の確保育成」の強化

- 1.販売と加工の強化
  - 販売体制の構築～人員の配置と販売のためのストーリーづくり
  - 販路拡大と輸出の取組～積極的な販促活動
  - 既存農産物の活用～ハルユタカ・なたねに加えて、そばの見直しと販売強化
  - 地元農産物、農産加工品を活用したオリジナル商品の開発と販売
  - 地産地消事業への取組と支援～食と農ネットワークの構築
- 2.魅力あふれる農産物の生産
  - 高品質米、低農薬米への取組み拡大の支援
  - 滝川型輪作体系の構築～初冬まきハルユタカ・なたね・そばの活用
  - 新規作目の検討～土地利用型野菜・施設野菜・水田放牧・新規需要米・飼料作物
  - 園芸振興事業の再構築と、水稻育苗ハウスの有効活用策としてなばな導入の拡大
  - 園芸作物を中心とした人材登録・派遣の実施
  - 共同利用施設の利用促進～設備投資の抑制
  - 水稻直播への取組み～低コスト・省力化
- 3.多様な担い手の確保と育成
  - 新規就農者の受入とサポート
  - 認定農業者への支援～経営改善計画のフォローアップと指導
  - 法人化、集団化への支援～個別研修と指導、設立支援
  - 中小規模農家対策～少量多品目野菜生産と直売・加工取組支援

## 課題解決への取組の推進項目

### どうやってどのように販売する（重点項目）

#### 農産物の販売・加工の強化

- 販売体制の構築
- 滝川農畜産物の道内外への販路拡大と、台湾等への輸出、直売など自販への取組
- 地元畜農産物、農産加工品を活用したオリジナル商品の開発・販売
- 地産地消事業への取組支援、食と農のネットワークづくり
- 規模に応じた少量多品目野菜の生産の取組と直売

#### 農業振興組織の設立

- 農業振興会議（仮称）の設置

#### 営農指導体制の強化と広域化

- 広域的営農指導体制の構築
- 地図情報システムの早期導入
- 営農振興センターの設置

### 誰が作る（重点項目）

#### 担い手の確保と育成

5年後の目標

農業経営体：450

うち認定農業者：220

（うち法人：10 新規就農及び後継者：30）

- 新規就農の受入とサポート
- 認定農業者への支援
- 法人化、集団化の支援
- 中小規模農家対策～少量多品目野菜生産と直売・加工取組支援

### どんなものを作る

#### 農業所得の確保

- 高品質米・低農薬米の取組み拡大
- 畑作物単収・品質の向上
- 園芸作物への取組拡大
- 労働力確保対策
- コストの削減
- 営農類型の提示

### どこで作る

#### 農地の保全と地域の水・環境の向上

- 土地改良事業の実施
- 農地・水・環境保全向上対策
- 農地の集積と連坦化対策

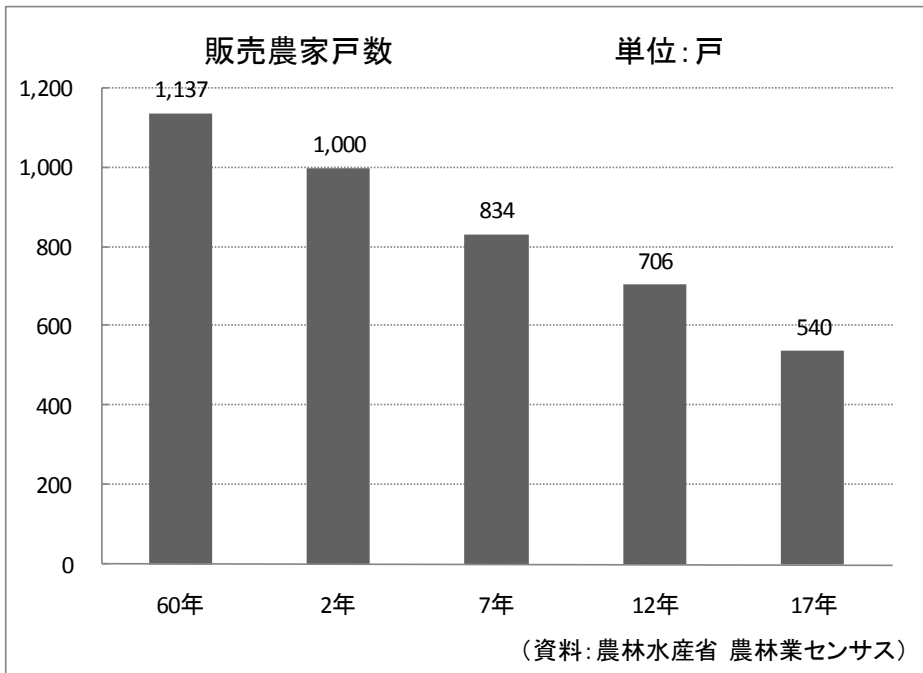


## 課題解決への取組の推進体制

項 目	取組主体	実 施 年 度				
		H20	H21	H22	H23	H24
<b>農産物の販売・加工の強化(重点項目)</b>						
○販売体制の構築(職員の配置)	JA・市・農業者	●				
○滝川農畜産物の道内外への販路拡大と台湾等への輸出の取組み (米・ハルニタカ・なたね・なばな等)	JA・市・農業者	●				→
○地元農産物、農産加工品を活用したオリジナル商品の開発と販売(組み合わせ商品含む)	JA・市・農業者	○	●			→
○地産地消事業への取組と支援(加工・自販含む)	市・JA・農業者	●				→
○食と農のネットワークづくり	市・JA・普及セ 農業者・消費者	○	●			
○規模に応じた少量多品目野菜の生産と直売の取組	市・JA・普及セ 農業者・消費者	○	●			
<b>担い手の確保と育成(重点項目)</b>						
○新規就農の受入とサポート(目標30人:後継者含む)	市・JA・普及セ	強化				→
○認定農業者への支援(フォローアップと経営指導)	市・JA・普及セ	強化				→
○法人化、集団化の支援(目標10法人)	市・JA・普及セ	強化				→
○中小規模農家対策～少量多品目野菜生産と直売・加工取組支援	市・JA・普及セ	○	●			→
<b>農業振興組織の設立(重点項目)</b>						
○農業振興会議(仮称)の設置	市・JA・普及セ 農業者	●				
<b>営農指導体制の強化と広域化(重点項目)</b>						
○広域的営農指導体制の構築	市・JA・普及セ	○	○	○	●	
○地図情報システムの早期導入	市・JA・関係機関	○	●			
○営農振興センター設置(ワンストップ窓口化)	JA・市	設計	●			
<b>農業所得の確保</b>						
○高品質米・低農薬米の取組み拡大支援	JA・市・普及セ	○	●			
○畑作物単収・品質の向上支援						
輪作体系の構築	JA・市・普及セ	○	○	●		
新規作目の検討(土地利用型作物)	JA・市・普及セ	○	○	●		
新規需要米、飼料作物、水田放牧の検討・取組支援	JA・市・普及セ	○	○	●		
○園芸作物への取組拡大支援						
園芸振興事業の再構築となばな導入拡大支援	JA・市	○	●			
新規作目の検討(園芸作物)	JA・市・普及セ	○	○	●		
○労働力確保対策支援						
園芸作物を中心とした、人材登録・派遣	JA・市	○	●			
○コストの削減支援						
共同施設の利用促進(施設整備含む)	JA	○	●			
適切な施肥・防除による薬剤費抑制対策	JA・普及セ	○	●			
水稻直播の検討・取組支援	市・JA・普及セ	○	○	●		
○営農類型の提示	市・JA・普及セ	●				
<b>農地の保全と地域の水・環境の向上</b>						
○土地改良事業の実施	市・改良区					→
○農地・水・環境保全向上対策	農業者・改良区 ・市					→
○農地の集積と連坦化対策(土地改良の一環で実施)	農業者・改良区 ・市					→

○:調査・検討 ●:実施 →:継続

## 資料編



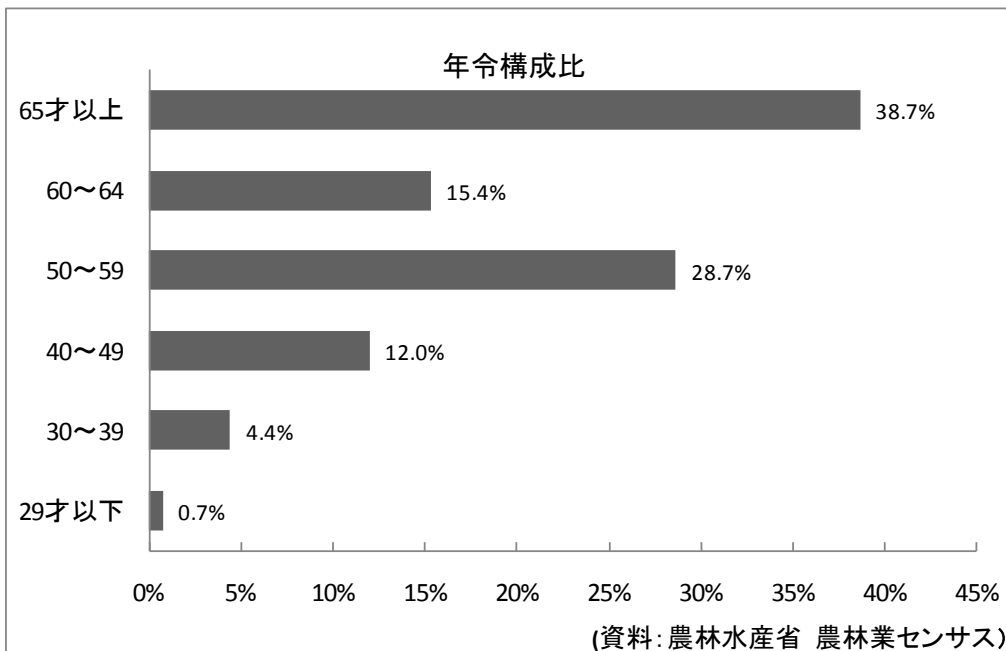
### ●販売農家戸数の急激な減少

60年 1,137 戸



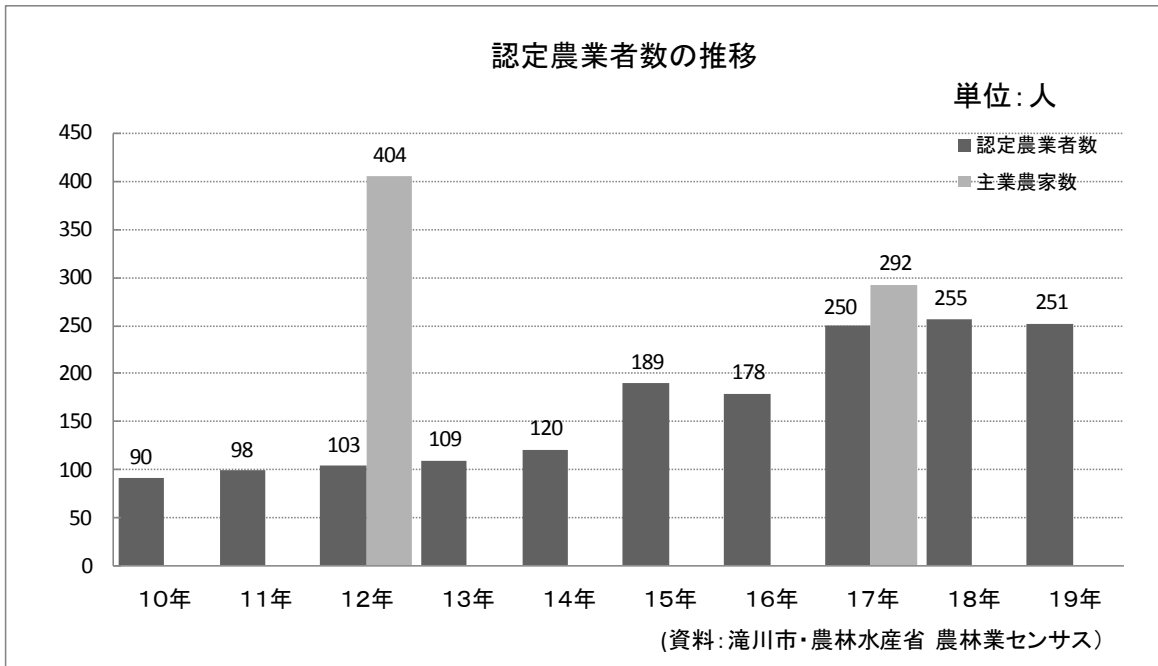
17年 540 戸 (53%減)

20年間で販売農家戸数は半分以下になっています。



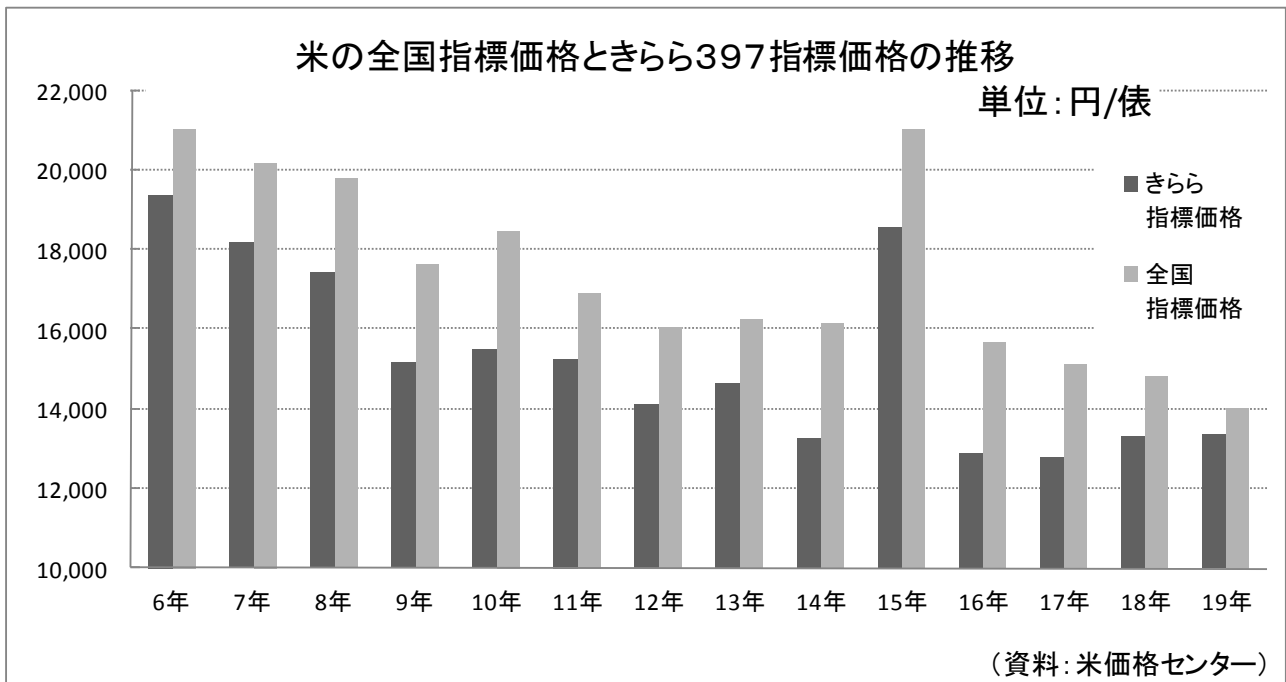
### ●農家の高齢化

平成17年では、60歳以上が、5割以上を占めており、さらに65歳以上が4割近くとなっています。このことから、将来大量のリタイヤが想定され、労働力不足が予想されます。



### ●認定農業者

担い手の中核である認定農業者は、H17年までは、認定活動の推進や認定要件の見直しなどで順調に増加してきましたが、それ以後は頭打ちになっています。主業農家に対するの比率が87%となっていることから、今後も大幅な増加は見込めない状況にあります。



### ●米の価格下落

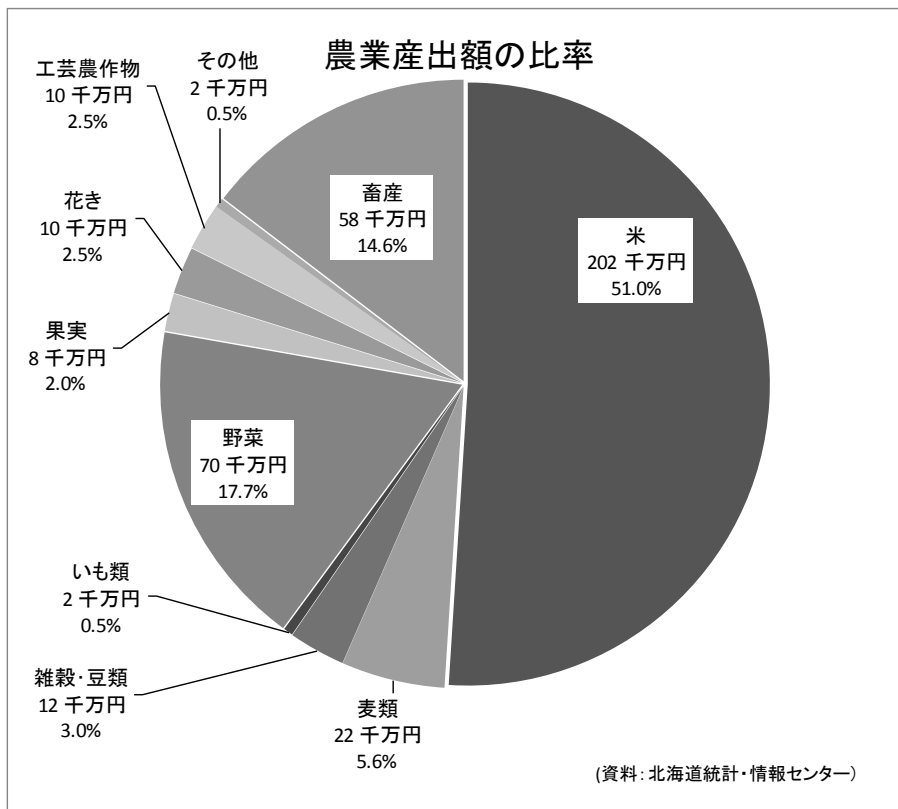
全国指標価格 (H19は1月末までの加重平均価格)

6年 21,367円/俵 → 19年 14,045円/俵 (34.3%減)

きらら指標価格 (H19は1月末までの加重平均価格)

6年 19,377円/俵 → 19年 13,297円/俵 (31.0%減)

きららを含めた道産米価格は、ここ数年わずかながら上昇しているものの、市場原理の導入により、安値安定時代に入ったと言えます。



平成 18 年産  
主食用米出荷比率

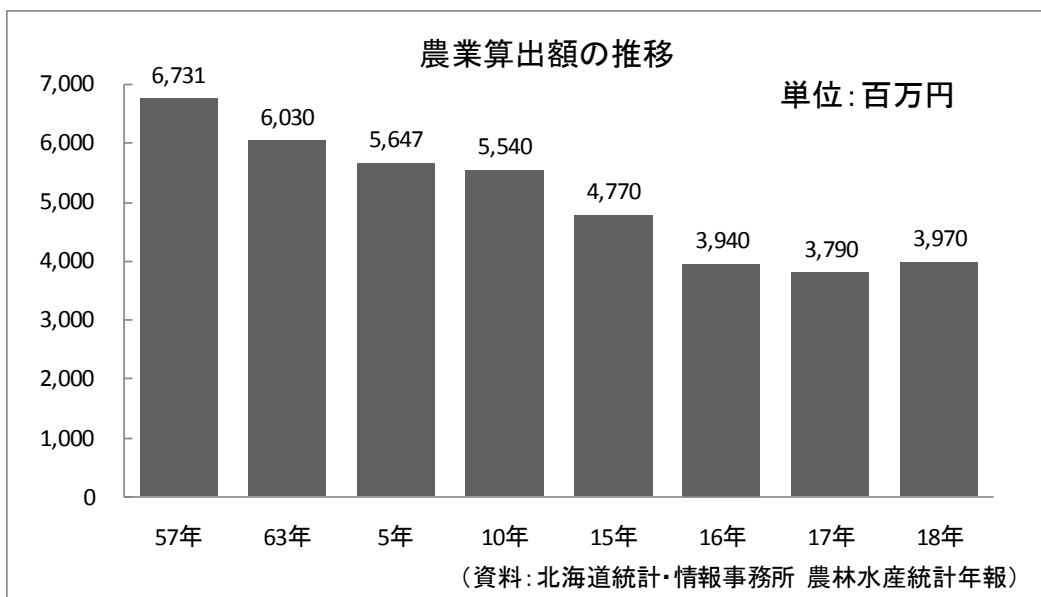
品種名	構成比
きらら 397	60.9%
ほしのゆめ	10.7%
ななつぼし	27.5%
その他	0.9%

平成 18 年産 JA たきかわ  
主要野菜販売実績

品 目	金 額 (百万円)
たまねぎ	152
トマト	55
アスパラガス	33
ミニトマト	23
インゲン	19
小ねぎ	17
なばな	7

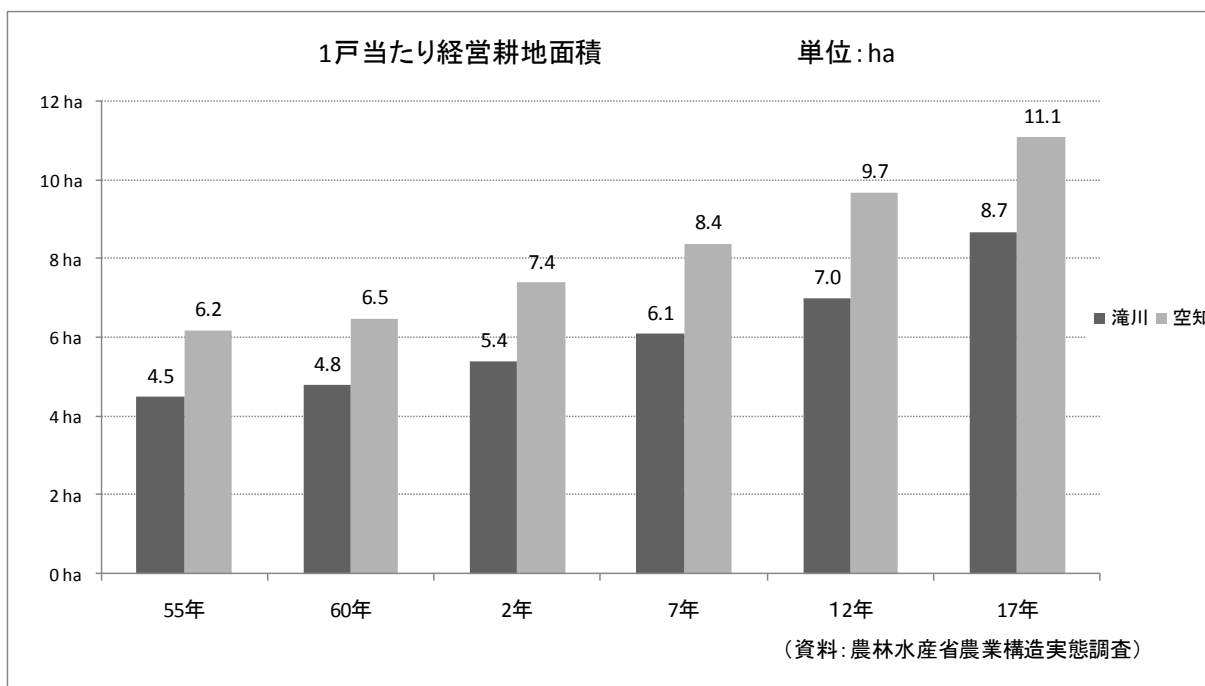
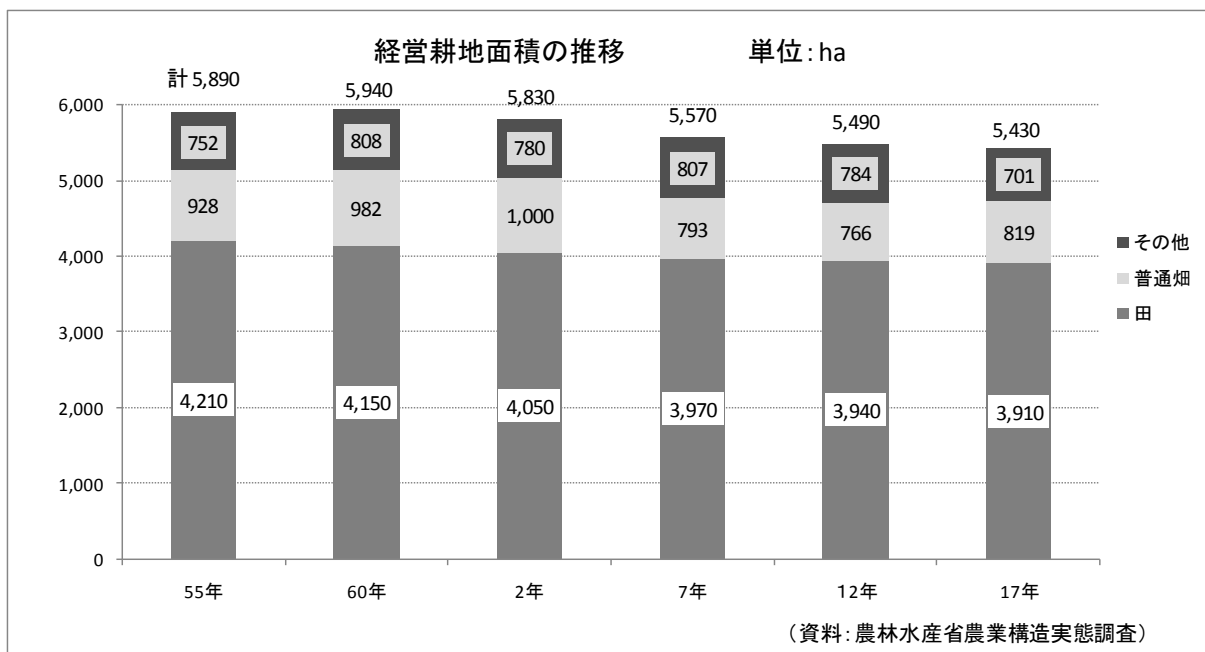
## ● 農業産出額

18 年の農業産出額の合計は、397 千万円で、うち米の比率が 51%と、過半を米に依存していることがわかります。



## ● 農業産出額の減少

63年 6,731 百万円 → 18年 3,970 百万円 (41%減)  
農産物価格の下落に伴い、生産額も大きく減少しています。



## ● 耕地面積

経営耕地面積は、55年の5,890haから17年の5,430haへと徐々に減少しています。1戸当たりの経営耕地面積は、農家戸数の減少に伴い急激に増加していますが、空知の平均面積と比較すると、依然少ない状態にあります。

# 営農類型

基本設定:主従事者1名・補助従事者2名 単位:a・kg・円・時間

## 水稲(生産調整含む)

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	1,300.0	540	70,200	192	13,478,400	25.0%	3,369,600	17.9	2,327.0
秋小麦	200.0	420	8,400	133	1,117,200	11.0%	122,892	5.0	100.0
春小麦	100.0	360	3,600	133	478,800	5.0%	23,940	3.2	32.0
なたね	100.0	300	3,000	180	540,000	26.1%	140,940	2.5	25.0
合計	1,700.0				15,614,400	23.4%	3,657,372		2,484.0

## 水稲+アスパラガス

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	1,000.0	540	54,000	192	10,368,000	25.0%	2,592,000	17.9	1,790.0
露地アスパラガス	35.0	450	1,575	900	1,417,500	19.4%	274,995	110.5	386.8
ハウスアスパラガス	35.0	600	2,100	1,100	2,310,000	30.0%	693,000	255.7	895.0
合計	1,070.0				14,095,500	25.3%	3,559,995		3,071.7

## 水稲+トマト

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	1,000.0	540	54,000	192	10,368,000	25.0%	2,592,000	17.9	1,790.0
トマト	9.9	9,000	8,910	300	2,673,000	30.0%	801,900	971.4	961.7
なばな	9.9	992	982	500	491,040	37.8%	185,613	279.9	277.1
合計	1,009.9				13,041,000	26.0%	3,393,900		2,751.7

## 水稲+花

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	1,000.0	540	54,000	192	10,368,000	25.0%	2,592,000	17.9	1,790.0
花き	33.0	22,000	72,600	80	5,808,000	27.3%	1,585,584	679.0	2,240.7
合計	1,033.0				16,176,000	25.8%	4,177,584		4,030.7

## 水稲+畑作

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	1,000.0	540	54,000	192	10,368,000	31.3%	3,242,528	17.9	1,790.0
秋小麦	1,000.0	420	42,000	133	4,452,000	19.0%	847,720	5.0	500.0
春小麦	500.0	360	18,000	133	1,872,000	12.1%	226,600	3.2	160.0
大豆	500.0	240	12,000	200	2,400,000	17.4%	418,400	8.1	405.0
合計	3,000.0				19,092,000	24.8%	4,735,248		2,855.0

※所得率の試算設定が10ha規模のため、スケールメリットとして、減価償却及びその他固定費を△20%で計算し所得率を算出した

## たまねぎ専業

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
たまねぎ	700.0	5,300	3,710,000	50	18,550,000	18.9%	3,505,950	33.5	2,345.0
合計	700.0				18,550,000	18.9%	3,505,950		2,345.0

## トマト専業

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
トマト	66.0	9,000	59,400	300	17,820,000	30.0%	5,346,000	971.4	6,411.2
なばな	9.9	992	982	500	491,040	37.8%	185,613	279.9	277.1
合計	75.9				18,311,040	30.2%	5,531,613		6,688.3

## 果樹+畑作

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
秋小麦	100.0	420	4,200	133	558,600	11.0%	61,446	5.0	50.0
春小麦	100.0	360	3,600	133	478,800	5.0%	23,940	3.2	32.0
なたね	100.0	300	3,000	180	540,000	26.1%	140,940	2.5	25.0
かぼちゃ	70.0	1,500	10,500	150	1,575,000	22.5%	354,375	107.0	749.0
リンゴ	400.0	1,500	60,000	100	6,000,000	36.1%	2,166,000	99.7	3,988.0
合計	770.0				9,152,400	30.0%	2,746,701		4,844.0

## 畑作専業

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
秋小麦	2,100.0	420	88,200	133	9,349,200	23.1%	2,156,112	5.0	1,050.0
春小麦	200.0	360	7,200	133	748,800	15.7%	117,240	3.2	64.0
そば	200.0	90	1,800	200	360,000	20.3%	73,080	1.2	24.0
大豆	1,200.0	240	28,800	200	5,760,000	19.9%	1,143,360	8.1	972.0
なたね	200.0	300	6,000	180	1,080,000	34.7%	374,280	2.5	50.0
合計	3,900.0				17,298,000	22.3%	3,864,072		2,160.0

※所得率の試算設定が10ha規模のため、スケールメリットとして、減価償却及びその他固定費を△30%で計算し所得率を算出した

## 水稲+肉牛

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	500.0	540	27,000	192	5,184,000	25.0%	1,296,000	17.9	895.0
肉牛	25.0	1	25	458,000	11,450,000	42.5%	4,866,250	72.8	182.0
牧草	300.0								
合計	800.0				16,634,000	37.0%	6,162,250		1,077.0

## 法人

品目名	面積	単収	収穫量	単価	粗収益	所得率	所得額	労働時間	必要労働時間
水稲	2,000.0	540	108,000	192	20,736,000	36.3%	7,523,056	17.9	3,580.0
秋小麦	500.0	420	21,000	133	2,226,000	25.1%	558,110	5.0	250.0
春小麦	200.0	360	7,200	133	748,800	17.4%	130,540	3.2	64.0
そば	500.0	90	4,500	200	900,000	21.9%	196,950	1.2	60.0
大豆	300.0	240	7,200	200	1,440,000	21.1%	303,240	8.1	243.0
なたね	500.0	300	15,000	180	2,700,000	36.1%	974,200	2.5	125.0
合計	4,000.0				28,750,800	33.7%	9,686,096		4,322.0

※所得率の試算設定が10ha規模のため、スケールメリットとして、減価償却及びその他固定費を△35%で計算し所得率を算出した